

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):

参加プログラム: ELI 派遣先大学: イェール大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 大学院進学

派遣先大学の概要

アイビーリーグのなかでも、ハーバード大学に並ぶ名門校であり、アメリカでは3番目に長い歴史を持つ大学。

参加した動機

将来、海外の大学院に進学することを視野に入れているため、アメリカの大学の雰囲気をしり、自分の英語力を高めるために参加した。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

いろいろな書類がたくさんあって、混乱しそうになった。何か忘れてしまわないうちに早め早めの準備、書類提出をする方がよいと思う。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

F1ビザをとった。派遣先大学から書類を受け取ったあと、アメリカ大使館に申請したが、手続きにはそれほど時間がかからず、一週間ほどですぐにビザが届いた。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)  
とくに準備はしなかった。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)  
クレジットカードの保険があったため、出国前には特に加入していないが、イェール大学のほうで加入してくれていた。(費用にも含まれていると思う)

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

期末試験を受けられないため、すべての科目の先生に事情をお話して、追試や課題などをだしていただいた。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)  
特にしていない。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

部屋の中でも靴を穿かなければならないので、ビーチサンダルのような楽な靴を持っていくと助かると思う。あとは、体調を万全にしておくこと。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

毎日宿題があり、そのほとんどの提出期限が、その宿題がだされた日の翌日であった。私の授業では毎週原稿なしの10分程度のプレゼンをやったりもした。それはすごく力になったと思う。

②学習・研究面でのアドバイス

宿題は手を抜こうとすれば楽だが、せっかく高いお金を払っているのだから、しっかり時間をかけて取り組んだ方が得られるものも多いと思う。

③語学面での苦勞・アドバイス等

授業中、ためらうことなく発言をする子がおおく、最初は圧倒されたが、気にせず自分も発言していくとよいと思う。みんな語学を学びにきているので、相手もこちらの話を聞こうとしてくれるし、一生懸命話せば伝わるからどんどん英語を使っていくべき。

#### 生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

寮で寝泊まりした。ルームメイトもいるが、私はたまたま日本人だった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

食事はだいたい寮で済ませ、たまに友人たちと日本料理や中華料理を食べに出かけていた。授業を受ける建物は全部寮の周りがあるので、週末友人たちと旅行に出かける時以外は交通機関は使っていない。お金は少しドルを持ってゆき、向こうではほとんどクレジットカードで済ませるようにした。ほとんどどこでもクレジットカードは使えた。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安が悪いところなので、夜は出歩かないようにしていた。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

教科書代が意外と高かった。  
毎週末、大学のイベントに参加したり、友人とボストンやニューヨークへ遊びにいったので、その費用はかなりかかった。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

FOTIとJASSOから頂いた。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

学生のバレーボールチームに混ぜてもらったり、ボランティアで農作業を手伝ったりした。  
週末はほとんど毎回遠出をしていた。

#### 派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

先生方はみな優しく、なんでも答えてくれた。  
また、寮ごとにサポートしてくれるイェールの学生がいた。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館はたくさんあり、夜勉強したくなくても寮の中にも図書館があった。ただ、空調が効いていてとても寒いので、私はほとんど自分の部屋で勉強していた。  
食堂の料理は私はあんまり好きではなかったが、それでも毎回お腹いっぱい食べていた。

#### プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

英語力はそれほどのびていない気もするが、英語を話す度胸はついたし、そしてとりあえずみんなの前でしゃべり続けられるぐらいには話すことに馴れたと思う。  
また、自分の常識とは異なる考え方、行動をする人たちと交流することはすごく楽しかったし、世界を知ることができたと思う。

②参加後の予定

海外の大学院への進学をめざす。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

参加するまではとても不安になるかもしれないが、参加してみると、英語で授業をうけたり友達を作ったり、が案外簡単にできるので、難しく考えずにとにかく参加するとよいと思う。

#### その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

東大の留学についてのページ

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 人文社会系研究科修士1年

参加プログラム: ELI 派遣先大学: Yale University

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界: ) 6.起業 7.その他( )

派遣先大学の概要

コネチカット州ニューヘイブンに位置し、アメリカで3番目に歴史のある名門大学。

参加した動機

自分の専門分野では論文の読み書きは英語なため、語学能力を向上させることが急務だった。また、海外留学未経験で、単純に興味があった。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

ビザや保険、航空券の手配などは余裕を持って準備しましょう。海外送金など、お金に関することやプログラム全般に関して分からないことがあれば、直接イェール側にメールしましたが、個別にきちんと返してくれたので、わからないことはそのままにせずどんどん聞いたほうが良いと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

1 か月あれば余裕だったと思います。ただ面接は夏は混んでいるので、面接を予約できる日が思っていたより先になり、少し焦りました。そういったことも考慮して早め早めに行ってください。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

常備薬を補充したのみ。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

クレジットカード付きの保険で済ませた。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

各授業の教授に事情を話し、学期末課題の時期をずらしてもらったり、免除して頂きました。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

授業ではよくついていたものの、スピーキングの機会はほとんどなく、英会話にかなり不安がある状況でした。しかし意外と行って見たらなんとかなるものなので、そこまで心配しなくてよいかと思います。一方でリスニングは出来るだけ準備していった方が良かったと思います。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

寮内では持参したスリッパを使っていたのですが、とても役立ちました。基本的に寮の部屋にエアコンはないですが、扇風機が必要かどうかは年によると思います。

私は一応小さいものを持参したのですが、今年はそこまで暑くなく、気候もカラッとしているので、特に必要なかったです。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

午前はリーディング/ライティング、リスニング/スピーキングの2コマ。内容は完全に先生によります。私の場合はR/Wは小説や詩を中心に扱い、中高の国語のような感じでした。非常に授業のうまい先生でした。L/Sはプレゼンテーションが中心で、6週間の間に大きなプレゼンを2~3回やりました。

午後の授業は選択で、特にAmerican Poetryの授業が非常に面白かったです。読解だけでなく自分で創作や発表をする機会にも恵まれました。

②学習・研究面でのアドバイス

授業中は物おしせず積極的に発言してください。海外の学生は積極的に話すひとが多いので、自ら機会をつかみにいかなければあまりしゃべる機会がないかもしれません。

③語学面での苦労・アドバイス等

意外と伝わるものなので、あせらず丁寧に伝えることができれば、コミュニケーションは成り立ちます。あとは人と比べない方がよいです。

## 生活について

### ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

寮の部屋は自分の場合一人部屋でしたが、一人か二人かは完全に運です。部屋の中はシンプルで必要最低限の設備ですが、食堂や寮全体の雰囲気はとてもよかったです。5人のフロアメイトがいて、トイレ、シャワー、洗面台は共用でした。

### ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は大変過ごしやすいです。大学周辺はこれと言ってなにもないので、週末は行事や旅行に行っている人が多かったです。食事はどの寮かによると思いますが、今年は良かったです。

### ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

ニューヘイブンは何も無い割に治安は良くないです。駅周辺や、街中でも、女性一人だとホームレスが話しかけて物乞いしてきます。必ず誰かと一緒に行動することをお勧めします。

### ④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空券、授業料、教科書代、寮費含めて100万ほどでしょうか。これに別途娯楽費がかかります。

### ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSOより16万。奨学金付きプログラムでした。

### ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

イエールのジムが使い放題なので、よく使っていました。週末はボストンに旅行に行ったり、ブロードウェイで観劇したり。毎週末なにかしら学校からイベントの案内があると思うので、どんどん利用すると思います。

## 派遣先大学の環境について

### ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

先生やスタッフたちは非常にフレンドリーで、特にストレスなど感じることなく勉強に取り組みました。いったんクラスがきまったあとでも、クラスの変更は相談すれば受け付けてくれるので、何かあればまずはスタッフに相談したらいいです。

### ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

地下図書館が個室が使えるため快適で、よく使っていました。PCは自分で持って行きましょう。

## プログラムを振り返って

### ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

自分にとっては今回が初めての留学でした。人から聞いたり本で読んで知った気になっていたようなことが、事実と違っていたり、また実際にそうであったりと、海の向こうの話が現実として感じられるようになりました。英語に関しては、特に話す、聞く面において頭が柔らかくなったと思いますし、英語への抵抗感や変な気負いもなくなったと思います。人との出会いも非常に大きかったです。優秀な世界の学生たちとも対等にわたりあえることが分かり、自信になりました。

### ②参加後の予定

再び研究生生活に戻ります。

### ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

学習環境は良いし、集まってくる人たちも優秀なので非常に価値のある留学だと思います。参加して損するということは絶対ないです。頑張ってください。

## その他

### ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。

### ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):工学系研究科 建築学専攻 修士一年

参加プログラム: English Language Institute 派遣先大学: イェール大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界:建築業 ) 6.起業 7.その他( )

**派遣先大学の概要**

イェール大学は、米国コネチカット州ニューヘイブン市に本部を置くアメリカ合衆国の私立大学である。1701年に設置された。アメリカ合衆国に現存する大学としては、ハーバード大学とウィリアム・アンド・メアリー大学に次いで3番目に長い歴史を持つ。学生数は学部、大学院合わせて約11,500人(ハーバードは約21,000人であり、約2分の1)。

**参加した動機**

国際的な考え方を身に付けて、国際的な人脈を作ります。  
多文化の雰囲気自身で体験します。  
英会話力や作文能力を磨きます。

**参加の準備**

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

プログラムに対応する公式サイトで申請用・登録用書類を完成して、自分の証明写真をアップロードします。申請完成後、公式サイトの手続きに従って、指定の口座に学費と家賃・食代を振込みます。留学先大学方面から留学用書類I-20をもらうからアメリカのビザの申請も可能になります。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザの種類: アメリカ I-20 留学ビザ 申請先: アメリカ大使館 手続きに要した時間: 約20日  
申請にあたってアドバイス: 申請時に要求される登録内容が大変多い上、面接の手続きもかなり時間がかかりますので、なるべく早めに準備したほうがお勧めです。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

健康診断は特にありません。日常用の薬品を用意して十分です。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

AIU 保険会社の短期旅行・留学保険を申し込みました。二ヶ月で約2万7千円です。手続きがオンライン申請で簡単です。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

予め指導教授と研究科の学務室に声をかけて、関連書類を提出します。建築学専攻にはこのプログラムに履修する単位を認めませんため、これを注意します。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

生活の不便をかけない為に、最低限の英語日常会話が必要です。特に緊急事態に遭う時、援助請求の言葉をちゃんと覚えることが大事です。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

小銭と洗面用具などを用意して良い。また、時間差の調整に対する準備も重要です。

**学習・研究について**

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

ELIの授業は主要コースと選修コースで構成します。主要コースはreading/writingとlistening/speakingがあります。選修コースの種類はアメリカ文化紹介やTOEFLの準備など様々があります。学生は自分の趣味次第で少なくとも2つを選べます。主要コースは毎日の宿題があります。宿題内容は作文練習と発表練習とその他があります。大体毎日2時間ぐらいをかかって完成できます。課程の最後では最終試験があります。試験内容は難しくないが、ちゃんと準備しなければいけません。

② 学習・研究面でのアドバイス

1つのクラスの人数が12人で、大きなテーブルに囲んで授業を行います。授業中によくディスカッションをやります。自分の会話能力を磨くため積極的に参加したほうが良い。会話中にミスすることは気にしないで、大胆に自分のア

アイデアを英語でほかの人に伝えます。

**③ 語学面での苦勞・アドバイス等**

気にせずチャンスをつかんでもっと外国学生と英語で会話しましょう。

**生活について**

**① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)**

二人一室の寮です。二人ともデスクとクローゼットがあります。ベッドシートと布団カバーと枕カバーがないため、予め用意したほうが良いです。また、宿舎内エアコンもないので、もし必要ならば近くのスーパーでファンを買えます。

**② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)**

New Havenの気温が東京よりやや涼しい。昼に大体30度ぐらいで、夜は20度ぐらいです。湿度は低いです。大学周辺にはスーパーや電車駅へのシャトルバスがあります。ウェブでバススケジュールを確認する上気楽に無料で乗れます。アメリカでは現金よりクレジットカードを利用する人が多いので、VISA または MASTERCARD のクレジットカードを準備するほうが良い。(JCB のクレジットカードが通用できません)

**③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)**

New Haven の犯罪率は高いので、夜9時からキャンパスの外に出ることを控えます。校内では健康相談室があります。病院のことはあまり気を付けません。

**④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)**

航空賃:往復約14万円 授業料:42万円 教科書代:コースにおける費用が違います。約1万円  
家賃と食代:約30万円 交通費:主にニューヨークなどへの旅行にかかる交通費用 約1-3万円  
娯楽費:5-10万円が目安 他の費用:5万円

**⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)**

東京大学方面の奨学金16万円をもらいました。7月末に口座振込で送られました。

**⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)**

宿舎の隣に学校のジムがあります。トレーニングルームやプールが全備です。大学方面色々な面白い文化活動を組織します。また、New Haven はニューヨークまであまり遠くないので、週末に MTA の電車を乗ってニューヨークの日帰り旅行もいい選択です。(ニューヨークのホテルが非常に高いですから、宿泊はお勧めできません。)

**派遣先大学の環境について**

**① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)**

国際学生用相談室があります。生活面と精神面の悩みが何でも気楽に相談できます。英語と中国語対応のチューターはいるが、日本語のチューターが未確認です。

**② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)**

図書館は二棟があります。共にエアコンがあるため、自習・宿題をやる最適な場所です。また、図書館の建物のデザインは非常にきれいですから、是非一度に参観します。食堂がモースキャンパスにあります。三食は全部ビュッフェで、料理の種類も多いです。学生用 PC 室が未確認ですが、全校範囲で無料高速 WIFI があるのですごく便利です。

**プログラムを振り返って**

**① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感**

私はイェール大学で充実した二ヶ月を過ごしました。多年の夢も叶えました。さすがイェール大学はトップの名門大学です。長い歴史を持つ建物も教学水準が高い教授も学術の雰囲気も素晴らしいキャンパスも全て魅力深いです。ここの英語の授業方法も結構面白いです。6週間の短期授業ですけど、私は自分の英語会話能力と作文能力の改善を確実に感じられます。また、私にとってアメリカに行くのは初めてですから、東方文化と異なる様々な西方文化を体験して嬉しいです。アメリカの歴史はあまり長くないが、博物館や美術館の数量と規模が世界中でもトップです。自分の目で世界名作を鑑賞して、まるであの輝きの時代に戻りたいです。このプログラムに通じてかなり成長しました。これは大変貴重な経験です。私の今後の生活と仕事に対しても必ず役に立てるでしょう。

**② 参加後の予定**

修士課程を履修し続けます。卒業後に日本で就職活動を参加したいです。

**③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス**

アメリカへの短期留学は知識を勉強するだけではなく、異文化の体験と学習も非常に重要な部分です。日本の大学と比べると、イェール大学は全く別のスタイルです。建物も教授も教学方式も私にとって全部初めての体験です。他国教育システムを自らで経験すると、自分が勉強する方法に対してもっと深く全面的な認識を身につけます。皆さんも是非躊躇しなくて一度参加してください。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

授業用教科書ある。ブックストアの新品の値段が高いため、アマゾンなどで中古品を買うほうが良い。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):工学系研究科修士2年

参加プログラム:Yale Summer Session

派遣先大学:Yale University

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤民間企業(業界:金融) 6.起業 7.その他( )

<p><b>派遣先大学の概要</b> コネチカット州ニューヘイブン(ニューヨークから電車で2時間)にある私立大学。総合大学であり、東大にあるような学部はもちろん、ミュージックスクールやドラマスクールもある。Yale Summer Sessionという名で開講される本サマープログラムはコースの種類も内容も非常に充実しており、世界中から高校生や大学生、社会人が訪れる。</p>
<p><b>参加した動機</b> ・来年から外資系の企業で働くので少しで英語力を向上させたいと思った。 ・ビジネスも学びたいと思ったのでビジネスコースがある大学を選んだ。 ・最後の夏休みなので思い切り楽しみたいと思った。</p>
<p><b>参加の準備</b> ①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) 基本的には大学からのメールの指示に従えばよい。 ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) 40日間なのでF-1ビザが必要。大使館に行く必要あり。2週間ほど要す。期日が迫ると焦るのでできるだけ早めに申請したほうがいい。 ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 特になし。 ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 三井住友海上の海外旅行保険。レポート割があるのでよく使う。 ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 単位は取り切っており特に関心は不要だった。修士2年で行くなら中間発表の日程をチェックしておいたほうがいいと思う。 ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) 特にしていないが、ある程度喋れたほうがいいと思う。 ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 日本らしいお土産。他国の学生がお土産をくれる場合があるのでお返しとして必要。</p>
<p><b>学習・研究について</b> ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) 宿題として課題を読んできて、その内容について授業時間の殆どの時間で学生同士のディスカッションをするスタイル。日々のリーディング課題の量は膨大。 ②学習・研究面でのアドバイス 特になし。 ③語学面での苦労・アドバイス等 学生のレベルはまちまちだが他の国の学生は日本人よりできる人が多い。ビジネスクラスだとリーディング量も多い。英語はできればできるほどいい。</p>
<p><b>生活について</b> ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) 私は大学のresidential collegeに住んでいた。エアコンの無い部屋、撤去されないゴミ、共同バス・トイレなど必ずしも快適とは言えないが、それもまたアメリカでの寮生活を垣間見ることができたことは貴重な体験であった。寮では別のコースの学生との交流することができ、逆に寮に住んでいなければ彼らとの交流の機会は殆どなく交友関係が狭くなってしまいうように思われる。 ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) 湿度が低く過ごしやすい。キャンパスまでは寮から徒歩で行ける。食事はその人次第だと思うが私は寮の食事が合わなくて大変だった。 ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) 治安は悪く、夜は一人で出歩いてはいけないと思う。医療機関の事情はよく知らないなので、病気にかからないように気を付けた。 ④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) 航空費約18万円、授業料約50万円、教科書代約1万円、家賃+食費約40万円、交通費約5万円、娯楽費約5万円 ⑤奨学金(支給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)</p>

日本学生支援機構の奨学金(8万円/月×2ヶ月=12万円)。国際交流チームの方に教えていただいた。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

ジムが非常に充実していたので平日は授業後毎日のように通っていた。週末はよくニューヨークに行っていた。ボストンにも一度だけ行った。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

お世話にはならなかったがカウンセリングのサービスなどがあると聞いた。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

上記項目はすべて充実していたが、ライティング課題が多い割にプリンターの数が少なくクレジットで料金を払うシステムなので煩雑で非常に使いづらかった。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

受講したコースは様々な国籍、年齢、バックグラウンドを持つ学生が集まっていたため、各国のビジネス事情や人々の考え方、業種/職種によるある事柄のとらえ方の違い、また宗教とビジネスとの関係などを知ることができた。授業で学んだことはもちろんだが、クラス内外でできた各国の学生との交友関係もまた他では得られない貴重なものであると感じた。今後も彼らとのつながりを一生大切にしていきたいと考えている。

②参加後の予定

9月よりスイスに交換留学の予定。卒業したら民間企業に就職予定。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

ビジネスコース(と、恐らく法律コースも)は他コースに比べ宿題量が多く厳しいので、生半可な気持ちで選択しないほうがいい。また、お金がかかるので早いうちに奨学金を探したほうがいい。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。